

# 教員評価実施のために

平成20年3月

社団法人日本私立大学連盟  
大学評価委員会教員評価分科会



はじめに .....	1
教員評価実施のために .....	1
評価シートの作成 .....	1
評価シートの活用方法 .....	2
おわりに .....	2
《別紙1》 「教員評価シート」	
I. 活動記録シート .....	4
1. 教育 .....	4
(1) 概要 .....	4
(2) 担当科目の概要 .....	4
2. 大学運営 .....	5
II. 自己評価シート .....	6
1. 教育 .....	6
(1) 授業運営 .....	6
(2) 論文指導等 .....	7
(3) ファカルティ・ディベロップメント .....	8
(4) 教育用図書（教科書）の執筆、教材・教育方法の開発 .....	8
2. 研究 .....	8
(1) 著作物（著書・論文等） .....	8
(2) 学会報告 .....	9
(3) 研修資金等 .....	9
(4) 研究評価 .....	9
(5) その他特記事項 .....	9
3. 大学運営 .....	10
4. 学生支援 .....	10
5. 社会貢献 .....	11
6. 産学連携、知財、TLO .....	11
7. 啓蒙活動 .....	11
8. ボランティア .....	12
9. その他特記事項 .....	12
III. 授業評価シート（学生用） .....	13
(1) 自身について .....	13
(2) 担当教員について .....	13
《別紙2》 教員評価実施のための前提条件（ベンチマーク）案 .....	15

## 《はじめに》

大学評価委員会教員評価分科会は、平成18年3月に教員評価委員会がとりまとめた「教員評価システム ― 実施のためのスタンダード・モデル ―」を踏まえ、加盟大学における教員の質保証を図るための教員評価のさらなる推進に向け、その具体策について検討するとともに、その推進状況にかかる情報提供に努めることを目的として設置された分科会である。

本分科会では、上記「教員評価システム ― 実施のためのスタンダード・モデル ―」において示された下記の教員評価にかかる基本理念を踏襲しつつ、より具体的な教員評価推進方策について検討を進めた。

- 1) 教員評価とは、「個々の教員の様々な領域における活動能力を高めることによって、大学全体の能力向上・活性化に資する」という目的のもとに実施される重要な活動（FD）の一環である。
- 2) 教員評価の実施とは、大学が社会的使命・責任を果たしていることの説明責任を担保するためのものである。

また、同報告書では、教員評価を大学全体として組織的に行うためには、専攻・学科・学部という組織全体によって実現されなければならない、組織全体の教育（力）の底上げが必要であるとしていたことから、同分科会では、教員評価実施の目的、視点、方法にかかる教員の共通認識（被評価者の納得感）の醸成を考慮した検討を進めた。また、2008（平成20）年4月1日を施行期日とする大学設置基準の一部改正により、人材養成の目的その他の教育研究上の目的の制定及び公表の義務化、単位の計算方法の明確化（実質化）並びに大学によるファカルティ・ディベロップメント（FD）実施の義務化が図られる予定であること、また、平成18年度第1回学長会議の開催に当たり実施された「教員評価制度並びに教員の任期制に関するアンケート結果」、並びに同結果を踏まえ、平成18年度に大学評価委員会小委員会が実施した「教員評価に関するアンケート結果」等の内容も踏まえ、教員評価推進のための具体的な諸方策のあり方について検討を進めた。

## 《教員評価実施のために》

### ＜評価シートの作成＞

教員評価の実施に当たっては、個々の教員の教育活動、研究活動等の透明化が不可欠であり、とくに教育活動については、以下の視点が重要となる。

- 1) 学生の目標、教員の目標、学科の目標という三つの目標の達成度が留意されるべきである。
- 2) 教員評価の出発点には、卒業生の質を保証するための教育の達成（到達）目標の設定が据えられるべきである。
- 3) 達成目標を達成するための行動計画と個々の教員が果たすべき役割との関

係性を明示する必要がある。

以上を踏まえ、本分科会では、以下の三つのシートからなる「評価シート」に基づき、教員の活動記録の透明化を図るとともに、教員評価制度実施に当たっての基礎資料とすることとした。

- 1) 「活動記録シート」：教務課等において作成
- 2) 「自己評価シート」：各教員が作成
- 3) 「授業評価シート」：学生が作成

「自己評価シート」と「授業評価シート」については、学生にいかに関心させるか、シラバスをいかに活用するかという視点に基づき、単位の実質化をいかに図るかが最終的な目的であり、両者の結果の相関関係性に基づき、FDの一環として教員評価が実施されることが必要不可欠である。

また、「自己評価シート」については、「教育」のほかに、「教員評価システム — 実施のためのスタンダード・モデル —」において、評価の対象となる活動を教育面、研究面、大学運営、社会貢献活動としていたことを踏まえ、「教育」、「研究」、「大学運営」、「学生支援」、「社会貢献」、「産学連携、知財、TLO」、「啓蒙活動」、「ボランティア」、「その他特記事項」とした。

なお、「授業評価シート」については、学生自身に当該科目への出席状況を問う設問項目、学生に自らを振り返らせる自己評価にかかる設問項目と授業内容あるいは教員について問う設問項目を明確に分けるとともに、とくに「自己評価シート」については回答者（各教員）の負担に留意した。

### ＜評価シートの活用方法＞

「活動記録シート」、「自己評価シート」及び「授業評価シート」からなる「教員評価シート」は、以下により活用する。

- 1) 教員評価は、主に「Ⅱ. 自己評価シート」の結果を評価実施の際の資料として用いる。
- 2) 教育面の評価は「Ⅰ. 活動記録シート」と「Ⅱ. 自己評価シート」によって行う。
- 3) 「Ⅱ. 自己評価シート」のうち、「Ⅲ. 授業評価シート」に掲載のある項目については、同結果をもとに自己評価を行う。
- 4) 「Ⅰ. 活動記録シート」はとくに問題がなければ、評価の対象としない。ただし、問題があるときのみ改善の資料とする。
- 5) 教員評価は各項目の値の総和を用いる。

### ＜おわりに＞

「別紙1 評価シート」の項目や内容、「2. (2)」で示した「評価シート

の活用方法」は、あくまでも教員評価分科会が考える「試案」である。専攻・学科・学部の分野によってはなじみにくい項目がある一方で、不足を感じる部分があるであろう。

「別紙1 評価シート」を参考に、一部を省略、補足するなど、個々の大学、専攻・学科・学部においてカスタマイズされることにより、教員評価の実施が進むことを願っている。

なお、本分科会の検討過程では、1) 教員評価の実施に当たっては、定量的側面と定性的側面とに分けて検討する必要がある、2) 教育面にかかる評価の定性的側面については、評価のための一定の前提条件（ベンチマーク案）の提示が望まれるといった意見も出されたことから、別紙2では「教員評価実施のための前提条件（ベンチマーク）案」を提案している。これについても個々の大学等においてカスタマイズをされ、教員評価の実質的な推進が図られることを期待したい。

## 教員評価シート

- 1) 教員評価は、主に「Ⅱ. 自己評価シート」の結果を評価実施の際の資料として用いる。
- 2) 教育面の評価は「Ⅰ. 活動記録シート」と「Ⅱ. 自己評価シート」によって行う。
- 3) 「Ⅱ. 自己評価シート」のうち、「Ⅲ. 授業評価シート」に掲載のある項目については、同結果をもとに自己評価を行う。
- 4) 「Ⅰ. 活動記録シート」はとくに問題がなければ、評価の対象としない。ただし、問題があるときのみ改善の資料とする。
- 5) 教員評価は各項目の値の総和を用いる。

### I. 活動記録シート (※太枠内のみ教員本人が記入)

#### 1. 教育

##### (1) 概要

(ふりがな)		所属学部・学科	
氏 名		職 名	

##### (2) 担当科目の概要

###### 【学 部】

No.	科目名	形式	カリキュラム上の位置づけ	履修登録学生数(人)	試験受験者数(人)	成績分布(人)		年間担当学生数(人)	責任担当時間数(時間/週)	実担当時間数(時間/週)	出欠確認(有無)	休講(回)	補講(回)
						A	Z						
1	〇〇学	講義	①必修 ②選択 ③その他	120	100	A	20	290	7.0	6.5			
						B	40						
						C	30						
						Z	10						
2	〇〇論	講義	①必修 ②選択 ③その他	150	120	A	30						
						B	50						
						C	30						
						Z	10						
3	〇〇 テーマ研究	演習	①必修 ②選択 ③その他	10	10	A	3						
						B	6						
						C	1						
						Z	0						
4	〇〇 ゼミナール	演習	①必修 ②選択 ③その他	10	10	A	5						
						B	3						
						C	2						
						Z	0						
5	〇〇 ゼミナール	演習	①必修 ②選択 ③その他	10	10	A	5						
						B	3						
						C	2						
						Z	0						

【大学院（専門職大学院を除く）】

	科目名	形式	カリキュラム上の位置づけ	履修登録学生数(人)	試験受験者数(人)	成績分布(人)		年間担当学生数(人)	責任担当時間数(時間/週)	実担当時間数(時間/週)	出欠確認(有無)	休講(回)	補講(回)
						A							
1						A							
						B							
						C							
						Z							
2						A							
						B							
						C							
						Z							
3						A							
						B							
						C							
						Z							

【専門職大学院】

	科目名	形式	カリキュラム上の位置づけ	履修登録学生数(人)	試験受験者数(人)	成績分布(人)		年間担当学生数(人)	責任担当時間数(時間/週)	実担当時間数(時間/週)	出欠確認(有無)	休講(回)	補講(回)
						A							
1						A							
						B							
						C							
						Z							
2						A							
						B							
						C							
						Z							
3						A							
						B							
						C							
						Z							

2. 大学運営

下記内容について、今年度担当したものに○を付してください。

①理事長、理事		⑤全学的な委員会委員長	
②評議員		⑥全学的な委員会委員	
③学長、副学長、学部長		⑦学科主任その他専攻主任等	
④部長、館長、センター長等		⑧その他（学科内検討組織等）の委員	

## II. 自己評価シート

### 1. 教育

①所属大学の建学の精神及び教育理念、所属学部・学科の人材養成の目的を理解していますか。  
 はい      いいえ

②所属大学の建学の精神及び教育理念、所属学部・学科の人材養成の目的の具現化を目指し、担当科目においてどのような教育活動の展開を企図していますか（自由記述）。

--

③上記「②」の実現に向け、とくに心掛けていることは何ですか（自由記述）。

--

#### (1) 授業運営

担当した各授業について、以下の項目について「4：はい」から「1：いいえ」の4段階で評価してください。②、③、④、⑤については「学生評価」の結果についてどのように思われるか、⑥、⑦については「いいえ」の場合の理由を記述ください。

科目名	評価項目	自己評価	学生評価結果
〇〇概論	①学部・学科の人材養成の目的を具現化した授業目標を立てましたか。	4 3 2 1	
	②この科目の目標を達成するためにサポートを十分しましたか。 <small>(学生用設問：この科目の学習目標を達成するための教員のサポートは十分でしたか)</small>	4 3 2 1	4 3 2 1
	自由記述：		
	③この科目の目標を達成させることができましたか。 <small>(学生用設問：あなたは、この科目の目標を達成することができたと感じますか)</small>	4 3 2 1	4 3 2 1
	自由記述：		
	④学生に応用力をつけることができましたか。 <small>(学生用設問：この科目を学ぶことで、自身の応用力がついたと感じますか。)</small>	4 3 2 1	4 3 2 1

自由記述：		
⑤関連学問分野への興味を持たせることができましたか。 (学生用設問：この科目を学ぶことで、この科目あるいは関連学問分野への興味が一層高まりましたか。)	4 3 2 1	4 3 2 1
自由記述：		
.....	4 3 2 1	4 3 2 1
⑥シラバスにおいて成績評価基準を明確にしましたか。 (学生用設問：この科目の成績評価基準は明確に示されていましたか。)	4 3 2 1	4 3 2 1
「いいえ」の場合の理由：		
⑦シラバスに記載した自らの成績評価基準に従って、厳格、かつ、客観的に成績評価を行いましたか。	はい	いいえ
「いいえ」の場合の理由：		
⑨成績結果に対して学生から何らかのクレームがありましたか。	はい	いいえ
「はい」の場合はクレームの内容、その対応内容を記述ください。		
⑧休講回数が複数回であった場合、休講回数と補講回数が合致しない場合はその理由を記述ください。		

(2) 論文指導等

卒業論文指導等について、指導人数、査読人数等をご記入ください(人数記述)。また、特記事項があればご記入ください(自由記述)。

【学部】

指導人数	人	査読(校閲)人数	人
------	---	----------	---

【大学院(専門職大学院を除く)】

	指導人数	審査人数	
		主査	副査
修士論文	人	人	人

特定課題研究（リサーチ・パター）	人	人	人
博士論文（課程）	人	人	人
博士論文（論文）	人	人	人

【専門職大学院】

卒業課題研究担当人数	人
------------	---

[特記事項]
--------

(3) ファカルティ・ディベロップメント

教育内容・方法の向上・改善のためのファカルティ・ディベロップメント関連企画等へ参加したことがありますか（自主的な取り組みを含めて自由記述）。また、特記事項があればご記入ください。

企画名	主催者	期間（日数）

[特記事項]
--------

(4) 教育用図書（教科書）の執筆、教材・教育方法の開発

内容、作成方法、活用実態（他の授業における活用を含む）を記述ください（自由記述）。

[自由記述]
--------

2. 研究

(1) 著作物（著書・論文等）

①単著による学術書の刊行冊数	冊／年
②学術書以外（注釈書、辞書、学術的翻訳書等）の単著の刊行冊数	冊／年
③共著による学術書の刊行冊数	冊／年
④学術書以外（注釈書、辞書、学術的翻訳書等）の共著の刊行冊数	冊／年

⑤単独による教材開発	件/年
⑥共同による教材開発	件/年
⑦査読付国際雑誌への論文の発表本数	本/年
⑧査読付学外雑誌への論文の発表本数	本/年
⑨学内紀要への論文の発表本数	本/年
⑩特許出願回数	回/年
⑪特許取得回数	回/年
⑫芸術（建築、美術、音楽等）の創作活動数	点/年
⑬スポーツ活動、指導、研究の回数	回/年
⑭フィールド調査・研究の回数	回/年

## (2) 学会報告

①国内の学会における個別研究報告の回数	回/年
②国内の学会におけるシンポジウムの報告の担当回数	回/年
③国内の学会における企画リーダー（座長）の担当回数	回/年
④国際学会における個別報告の回数	回/年
⑤国際学会におけるシンポジウムでの報告の担当回数	回/年
⑥国際学会における企画リーダー（座長）の担当回数	回/年

## (3) 研究資金等

①学内における競争的研究資金への応募回数	回/年
②学内における競争的研究資金の獲得回数	回/年
③学外における競争的研究資金への応募回数	回/年
④学外における競争的研究資金の獲得回数	回/年
⑤指定寄附の獲得回数	回/年
⑥寄附講座の担当回数	回/年
⑦受託研究の受託回数	回/年
⑧学内における共同研究の参画回数	回/年
⑨学外における共同研究の参画回数	回/年
⑩学外研究者の受け入れ回数	回/年

## (4) 研究評価

①論文引用回数	回/年
②研究活動に対する国内の機関からの表彰回数	回/年
③研究活動に対する国外の機関からの表彰回数	回/年

## (5) その他特記事項

[特記事項（自由記述）]

### 3. 大学運営

①入試関連業務等の担当回数	回/年
②入試試験における出題、採点、書類専攻、面接、試験監督の担当回数	回/年
③同窓会活動への参加回数	回/年
④父母懇談会への参加回数	回/年
⑤オープンキャンパスへの参加回数	回/年
⑥高大連携のための模擬授業の実施	回/年
【特記事項（自由記述）】	

### 4. 学生支援

①学内の学生団体（クラブ、サークル等）の部長（顧問）、技術的指導（コーチ）等を務めていますか。務めている場合、以下についてご記入ください。また、特記事項があればご記入ください（自由記述）。

団体名	役職名	合宿帯同	対外試合帯同	大学祭参加指導等（内容等を自由記述）
		回	回	
		回	回	
		回	回	
		回	回	
【特記事項（自由記述）】				

②課外教育プログラム（大学主催による海外研修の引率等）に企画・参加しましたか。

プログラム名	参加形態		期 間	内容・かかわり方等
	企画	参加		
			月 日～ 月 日	
			月 日～ 月 日	
			月 日～ 月 日	
【特記事項（自由記述）】				

③学生の就職支援の一環として、企業訪問等をしましたか。

[概要（自由記述）]

④その他特記事項

[特記事項（自由記述）]

## 5. 社会貢献

①政府・地方公共団体審議会の委員（委員・専門委員・幹事）の歴任回数	回
②大学関係機関・団体等の役職・委員の就任回数	回
③国内外の所属学会における役員就任回数	回
[上記概要及びその他特記事項（自由記述）]	

## 6. 産学連携、知財、TLO

①企業と連携した活動回数	回／年
②企業と連携した社会人向けの教育プログラムの担当回数	回／年
[上記概要及びその他特記事項（自由記述）]	

## 7. 啓蒙活動

①小中高生に対する入試広報以外の啓蒙活動（公開講座の実施等）回数	回／年
②社会人に対する入試広報以外の啓蒙活動（公開講座の実施等）回数	回／年
[上記概要及びその他特記事項（自由記述）]	

## 8. ボランティア

①ボランティア活動への参加回数	回
[上記概要及びその他特記事項（自由記述）]	

## 9. その他特記事項

[自由記述]
--------

### Ⅲ. 授業評価シート（学生用）

（○○○網掛け項目は、「Ⅱ. 自己評価シート」「1. 教育活動」「（1）授業運営」に対応）

#### （1）自身について

①この授業に毎回出席しましたか。

はい 4    3    2    1	[理由（自由記述）]
------------------------	------------

②この科目の目標を達成することができたと思いますか。

いいえ 1    2    3    4	[自由記述]
-------------------------	--------

③この科目を学ぶことで、自身の応用力がついたと感じますか。

はい 4    3    2    1	[自由記述]
------------------------	--------

④この科目を学ぶことで、この科目あるいは関連学問分野への興味が一層高まりましたか。

はい 4    3    2    1	[自由記述]
------------------------	--------

⑤この科目で学んだことは、今後活かすことができると思いますか。

いいえ 1    2    3    4	[自由記述]
-------------------------	--------

#### （2）担当教員について

①この科目の学習目標を達成するための教員のサポートは十分でしたか。

はい 4    3    2    1	[自由記述]
------------------------	--------

②学期はじめに公表されたシラバスは、この科目の授業内容を適切に反映していましたか。

はい 4 3 2 1	いいえ 1 2 3 4	[自由記述]
---------------	----------------	--------

③この科目は学期はじめに公表された授業計画等に基づき進められていましたか。

はい 4 3 2 1	いいえ 1 2 3 4	[自由記述]
---------------	----------------	--------

④この科目の成績評価基準は明確に示されていましたか。

はい 4 3 2 1	いいえ 1 2 3 4	[自由記述]
---------------	----------------	--------

⑤授業を通じてよかった点、改善してほしい点等、とくに気になったことがあれば自由に記述ください（例：声が聞き取りやすかった。板書が見にくかった。教材が適切でなかった。授業内容と試験内容の関係等）。

[自由記述]
--------

教員評価実施のための前提条件（ベンチマーク）案

1. 建学の理念（精神）・目的（教育方針）の設定、明示 — 水準評価
2. 建学の理念を反映した学部の理念・目的（教育方針）の設定、明示 — 水準評価
3. 建学の理念、学部の理念を反映した学科（専攻等）の理念・目的（教育方針・人材養成目的）の設定、明示 — 水準評価
4. 学部（学科）の学問領域を反映した学部・学科（専攻等）の理念・目的の設定、明示 — 水準評価
5. 学部・学科（専攻等）の理念を反映したカリキュラムの設定 — 水準評価
6. カリキュラム見直しの有無、頻度（定期的に見直しているか否か）  
— 達成度評価
7. カリキュラムの目的を反映した統一方式によるシラバスの作成の有無  
— 達成度評価
8. シラバスの内容（授業計画の明示、成績評価基準及び成績分布の公表）  
— 達成度評価
9. 成績評価に対する質問・クレーム制度の有無 — 水準評価
10. F Dの組織的対応制度の有無 — 水準評価
11. F D組織による具体的活動の内容（研修、授業参観等）  
— 水準評価、達成度評価
12. 全学統一の組織的な授業評価制度の内容、実施の有無、個人レベルでの結果の公表の有無 — 水準評価、達成度評価
13. 評価結果を反映したフィードバック（フォロー、クレーム）制度の有無  
— 水準評価、達成度評価
14. F D関連制度の周知度 — 達成度評価
15. 非常勤講師に対するフォロー — 達成度評価

## 大学評価委員会教員評価分科会

担当理事	すず ぎ のりひこ 鈴 木 典比古	国際基督教大学	大学長
分科会長	にし ざわ むね ひで 西 澤 宗 英	青山学院	法学部教授
委 員	えん げつ かつ ひろ 圓 月 勝 博	同志社	教務部長・文学部教授
	いの うえ いち ろう 井 上 一 郎	京都産業大学	経営学部教授
	やくしじ きみ お 薬師寺 公 夫	立命館アジア太平洋大学	副学長
	おか もと し き 岡 本 史 紀	芝浦工業大学	常務理事・工学部教授
	やす おか たか し 安 岡 高 志	東海大学	理学部教授
	とよ はら ひで かず 豊 原 秀 和	東京農業大学	国際食料情報学部長